

ネネさん

N  
T  
R

日記

DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止





山奥の小さな田舎町から  
都会であるエンドールに  
越してきて1年…

苦労もあったが  
夫と助け合いながら  
念願だった自分達の  
店を持つことができた

店はすぐ軌道に乗り  
夫と息子家族3人での  
幸せな生活が続いたが…

店が繁盛するにつれて  
夫は仕事で家を空ける  
ことが多くなっていった

外で働く夫に代わり  
店を切り盛りする毎日…

不満など無かったが  
胸の奥には少しずつの  
寂しさを募らせながら…

それでも平穏な日常が  
静かに過ぎていった





はい、いらっしや…  
…あら



そんなある日のこと…

こんにちは



買い物ついでに  
しばらく交わされる  
彼との他愛もない会話



それは最近よくうちの  
店を利用してくれる  
常連の若い青年だった

どうも、ネネさん



ふふ、いらっしやい  
また来てくれたのね

ええ、草刈り用の  
新しい短剣が欲しくて

それならこの前  
仕入れたものが…

それは僅かながらも  
夫のいない寂しさを  
紛らわしてくれていた



それから何日かして…

ネネさん、良ければ  
今晚一緒に飲み  
に行きませんか？

え…

いつものように店に  
来た彼から唐突に  
バーに誘われる

もっと若い子を誘った方が  
いいんじゃないかしら？

ふふ…お世辞がうまいのね

……わかったわ  
じゃあ私でよければ

本当ですか？

そんな事ありませんよ  
ネネさんだって  
十分若いじゃないですか

ありがとうございます

じゃあ店が終わる頃に  
迎えに来ますから…

ええ…

思いがけない誘いに  
内心戸惑いながらも  
正直、悪い気はしなかった



そしてその日の夜

BA

店が終わってから  
二人で彼の行きつけの  
バーへと向かった

ふう…

大丈夫ですか？  
顔が赤いですけど

ええ…こうして飲むのも  
久しぶりだから

あまり家に帰れない夫と  
それに対して積もった  
寂しさと不安もあってか…

久しぶりに誰かと  
一緒に飲むお酒は  
とても美味しく感じられた

さすがに酔ってきたかしら…  
ごめんなさい、そろそろ…

そんな、まだ  
いいじゃないですか

今日は息子さんも  
友達の家に泊まって  
いないんですよね？

せっかくの夜なんですから  
もう少し楽しみましょうよ

…ふふ、そうね

そう言って彼に  
勧められるままに  
何度もグラスを傾けた



その後……閉店間際に  
彼と一緒にバーを出た  
所までは覚えている

しかし彼に連れられて  
向かったのは家とは  
反対方向にある宿屋……

INN

そして次に気が付いた時には  
その宿の一室のベッドの上で……

思っていた以上に  
ずっと締め付けて……っ

されるがままに  
何度も彼に犯された

くっ……いいですよ  
ネネさん……っ

その後も意識がはつきりと  
しないまま彼に抱かれ続け……

さあ、三度目……  
出しますよっ

いやあっ

だめっ

あは……っ

あああんっ

行為が終わったのは  
寝室の窓の外が微かに  
白みだしていた頃だった



後悔してももう遅い…  
彼の誘いに乗ったのは  
あくまで寂しさから…

身体の関係など  
持つつもりは  
全くなかった…

酔った上での過ちとはいえ  
家に帰ってからも  
夫を裏切ったことへの  
罪悪感で胸はいっぱいだった

せめて一度だけの過ちと  
割り切るつもりだったが…

だ…ダメよ  
もうあんなことは…っ

いいじゃないですか  
ネネさんだって  
あんなに乱れて…

あっ…あれは  
お酒が入ってたから…っ

でもこのままじゃ  
僕も諦めきれませんよ

せめて一か月  
僕に時間をください

そ、そんな…

そうしたらきっと  
諦めも付きますから

いいですよね  
ネネさん？

……



そして店の奥に連れ込まれ…

やっ…ダメっ

いいじゃないですか  
ネネさんだって…

ほら、乳首も  
こんな硬く  
なってますよ？

はあ…っ

そっ…それは  
あなたが  
触るからっ

フワッ

あっ

ビクッ

クニ

お、お願い…  
もうこんなことは…

んっ…

そう言われても今更  
止められませんよ

クニ

ネネさんのお尻に  
…ほらっ

クニ

やっ…  
あ、当たって…っ

ビクッ

クニ

あっ…そこはっ

寝室は二階ですよね？  
ゆっくり愛し合いましょ

クニ

はあっ

あっ…そ、そんなっ

ビクッ



本気で断ろうと  
思えばできたはず...

あっ

や...っ

ギシッ

あんっ

しかし彼の言葉に  
流されるままに  
またしても関係を  
持ってしまった...

いいですよ  
ネネさん...っ

これならまた  
朝までずっと  
できそうですね

ああっ、いやっ

ギシ

ギシ

あっ

んんっ

そっ、そんなんっ...

スッ

やっ、深いっ...  
ああっ

何度も強引に突かれて  
あられもない  
声を上げてしまっ...

いやっ

ヒョ

はあ

あ

前より締めつけて  
きてますよ

ダメっ...  
言わないでッ

そして彼の言葉通り  
朝が来るまでベッドで  
何度も犯され続けた

ギシ







そんな毎日を繰り返し  
2週間ほどが過ぎ...

いらっしやいませ

おや、ネネさん  
もう夏服かね？

ええ、少し早いですけど  
この頃は暑いですから

彼と会うとき以外は  
前と変わらない  
普段の日常が続いていた

そうじゃな  
しかし、ネネさん  
気のせいかな今日は...

なにやら一段と  
綺麗に見えるのお

ふふ、嫌だわ  
おじいさんたら





常連のおじいさんが  
帰って少しの後…

こんにちは  
ネネさん

いつものように  
彼がやってくる

んっ…ふっ…  
んんっ…

さあ…  
啜えてください

っ…も…  
もうこんな…

いいですよ…  
妻く上手じゃないですか

旦那さんにも  
こうやってして  
あげてたんですか？

な、無いわ…  
こんな…

フフ、じゃあ僕が  
初めての男ですね

この後はちゃんと  
挿れてあげますよ

んっ…ダメよ  
まだお店が…

あんっ！？

うっ！

あんっ！





ほら、根元まで全部入ってますよ

っ…奥まで来てっ…

はぁっ

あっ



あぁんっ、ダメっ まだお店が…あんっ

はぁんっ

あっ

フイルッ

口ではそう言っても 身体は違いますよ

中は啞えて離さない じゃないですか

あぁっ、いやっ



さあ、それじゃあ本格的にいきますよ

やっ…そんなに動いちゃ…あっ



流されるように 彼に犯されながらも…

そっ…はぁっ

やっ…あんっ すっ…いいっ

私は自分の中の変化を 次第に自覚し始めていた

あんっ

フイルッ

ダメエツ

フイルッ

ハッ

ハッ



そしてその変化は  
日常にも表れるようになって

らっぴききーす

いってらっしゃい  
気を付けてね

うん、お母さん

母として息子を  
見送りながら…

頭の中ではもう既に  
別のことを考える

身体に刻まれた快樂に  
微かに震えながらも…

それはこの後、訪れる彼と  
彼との淫らな行為のこと

私の頭はそのことで  
一杯になっていた

らっぴききーす



なぜ彼が自分のような  
歳の離れた女の身体を  
こころも求めるのか…

しかし彼との行為を  
思い出すだけで  
身体が疼いてしまう

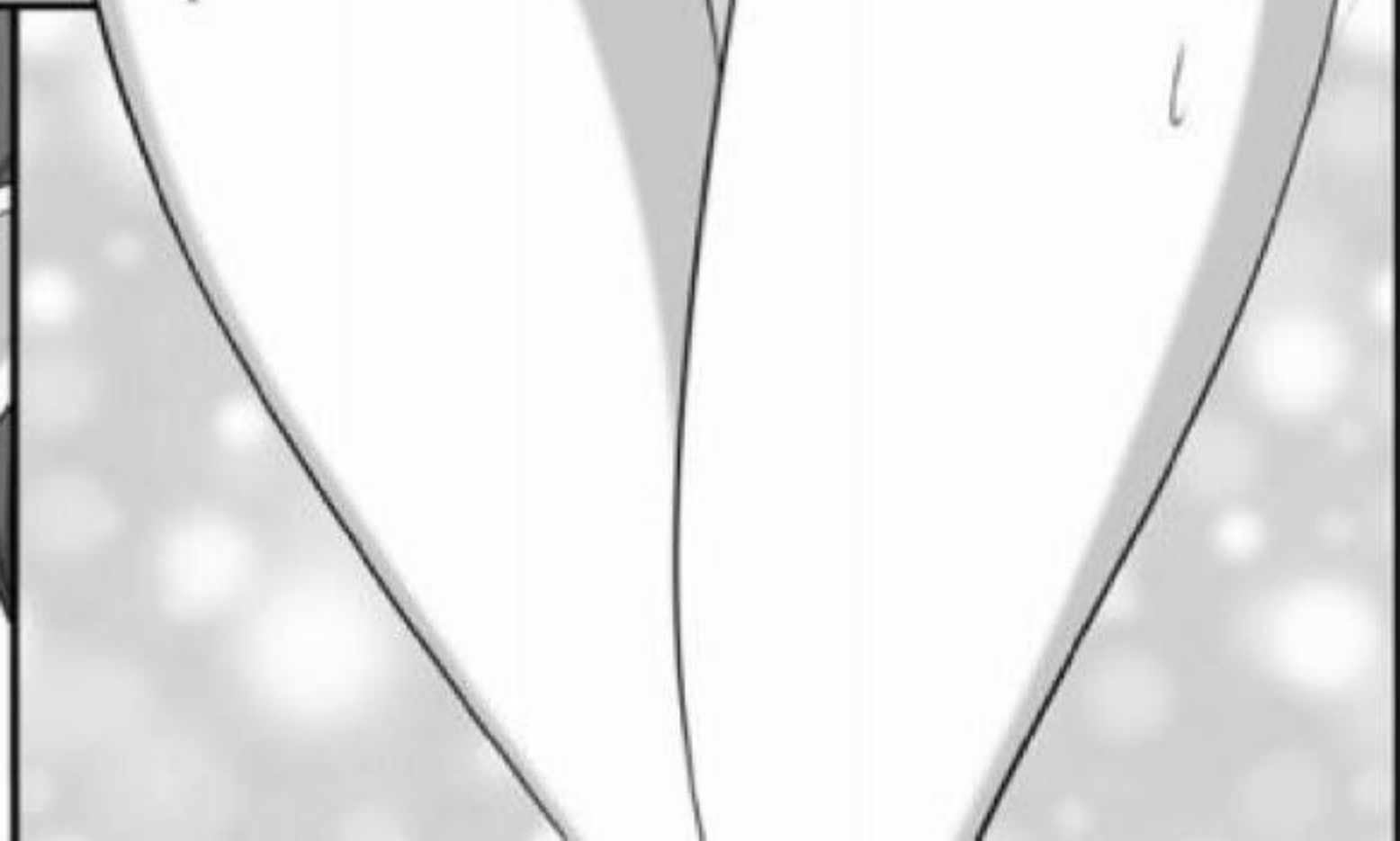


それは夫が与えて  
くれなかった  
女としての喜び

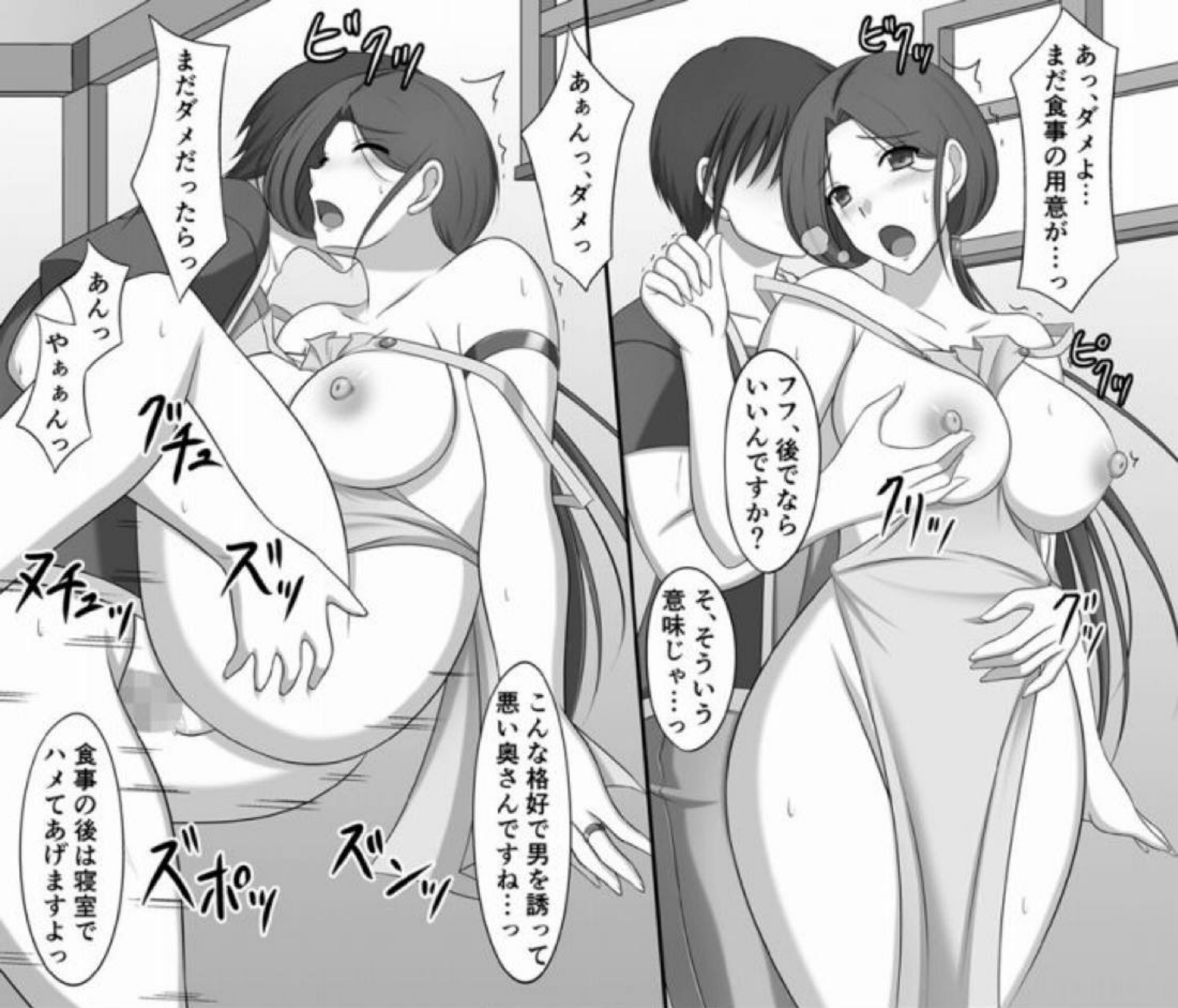
そして気が付けば  
私は自分からも…



積極的に彼を求めて  
溺れてしまっていた…







あつ、ダメよ...  
まだ食事の用意が...

ああんっ、ダメっ

まだダメだったらっ

フフ、後でなら  
いいんですか？

そ、そういう  
意味じゃ...

こんな格好で男を誘って  
悪い奥さんですね...

あんっ  
やああんっ

食事の後は寝室で  
ハメてあげますよっ

そしてあと二三日の間は  
日は過ぎるというわ...

気が付けば約束の  
一月が経とうとしていた



あはあっ

あんっ...いいっ

それえっ

ギョ

くっ...  
まだ出しますよっ

ギョ

グチャ

グチャ

グチャ



そしてあれから  
ちよごごーか月目の夜…

どうぞ

待ってましたよ  
ネネさん

良く似合ってますよ

や、やめて…  
恥ずかしいわ

私みたいな  
おばさんにこんな…

フフ、まだそんなこと  
言ってるんですね

今だから正直に  
言いますが…

僕はネネさんのことを  
以前から狙ってたんです

いつかこの人を自分の  
ものにしてやろうってね

っ…

さあ、こっちに  
来て下さい

今日こそはネネさんを  
僕の女に見せますよ

そんな彼の告白に…

私は年甲斐もなく  
胸の高まりを感じていた



ベッドに上がるとすべに  
彼はやるように私の身体を  
激しく犯し始める...

太く逞しいモノに  
突かれて喘ぎながら  
私は理解していた



もう以前の自分には  
戻れないということを知り...

さあ、舌を出して



あつ...あふつ...  
んっ、はあつ...

ほら、根元まで  
啜え込んでますよ...



やつ、こんな格好っ...

しかしあのネネさんが  
若い男とセックスして  
こんな風に喘いでるなんて...

近所の人達が知ったら  
驚くでしょうね、フッフ

あんっ、いやあつ...  
言わないでっ

ところでネネさん  
これから僕とこうして  
会ってくれますよね？

はあつ...え...







僕が旦那の代わりにしてあげますよ……っ

やあんっ

さあ、答えを聞かせてっ

あんっ

ピュッ

ピュッ

はあっ

ピュッ

いいっ

ズッ

ズンッ

ネネさんの……  
いや、ネネの夫になって毎日愛してあげます

ああっ、それはっ

チッ  
スリッ

彼の問いかけに  
どう答えればいいのか……  
しかし私の心は  
もう既に決まっていた

……は、はい



今の私は彼と……  
そしてこの快樂無しには  
いられないのだから

私を……あなたの奥さんに  
してちょうだい♡

はあ

はあ

あなたの若くて逞しい  
オチ●チンで毎日犯して……

これからもこうやって  
可愛がって欲しいの♡





ズッポ

ズッポ

ギッ

ギッ

フフ、わかったよ...っ

ズッポ

それじゃあこれが  
夫婦としての最初の  
セックスだねっ

ズッ

ギッ

やあっ♡

あんっ♡

ギッ

やんっ、オチンチン  
そんなに激しくっ♡

ズッポ

いらっ♡



いいよ、ネネ...っ  
これからもこの身体を  
好きにできるなんてねっ

ズッポ

ああんっ、使ってっ♡  
私はもうあなたの  
奥さんだからあっ♡

ズッ

ズッポ

あっ、あんっ♡

いいっ、あっ...  
ああんっ♡

ズッ

さあ...それじゃあ  
今日の一発目だ...っ



ネネの中にいっぱい  
注いであげるからねっ

アッポ

はっ♡

ああんっ、出してっ♡

あはあっ♡

ギッ

あなたの精子全部  
私の中に...っ♡







それから…

いらっしやいませ

おや、ネネさん  
髪を下ろしたのかね

ええ、少し気分を  
変えようと思って

そうかそうか  
それにしても…

ネネさん、何やら  
また一段と若く  
綺麗になったのお

誰か好きな男でも  
出来たのかね？

ふふ、嫌だわ  
おじいさん

人妻に言う台詞じゃ  
ありませんよ

ふおっふおっ  
そうじやのお

そう、私は愛する  
夫を持つ人妻

そしてこの日の夜も…

私は新しいもう一人の夫と  
愛を確かめ合っています

ああん…♡  
はい…あなた♡

いいよ、ネネ

今日も朝までずっと  
愛してあげるからね

キッ

スッ

スッ

スッ

70ルッ

70ルッ

ズッ

ズッ

ズッ

あん

あ

はま